

平成 22 年 5 月 13 日現在

研究種目：特定領域研究

研究期間：2005～2009

課題番号：17063003

研究課題名（和文） 西アジア乾燥地帯への食料生産経済波及プロセスと集団形成

研究課題名（英文） Expansion and formation processes of the food production society in the arid land of West Asia

研究代表者 西秋良宏 (NISHIAKI YOSHIHIRO)
東京大学・総合研究博物館・教授

研究者番号：70256197

研究成果の概要（和文）：ユーフラテス河中流域シリア沙漠において野外調査をふくむ各種調査を実施し、食糧生産経済集団の乾燥地進出経緯について調べた。その結果、青銅器時代前期に、それ以前とは質的に異なる本格的開発が開始されたことが判明した。遊牧民が展開したものと推定される。また、集落、墓、仕事場など青銅器時代前期の遺跡群は、複数の階層的クラスターをなして分布することも明らかになった。この事実は、複数の部族レベルからなる部族社会がその担い手であったことを示唆していると考えられる。

研究成果の概要（英文）：A series of fieldwork and the related research was conducted in the steppe region of the Middle Euphrates, North Syria. The results indicated that the extensive exploitation of the steppe environments in this part of Syria commenced during the Early Bronze Age, presumably by the nomadic pastoralists. In addition, they revealed a distinct pattern on the distribution of the Early Bronze Age settlements, cemeteries, and other work spots, which is believed to reflect the stratified tribal levels of the society in this period. These data greatly contribute to our better understanding of the tribal formation processes in the Middle Euphrates steppe.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2005 年度	6,600,000	0	6,600,000
2006 年度	5,900,000	0	5,900,000
2007 年度	5,900,000	0	5,900,000
2008 年度	6,100,000	0	6,100,000
2009 年度	6,800,000	0	6,800,000
総計	31,300,000	0	31,300,000

研究分野：

科研費の分科・細目：

キーワード：ビシュリ山系、ユーフラテス中流域、新石器時代、青銅器時代、石器製作技術、遊牧、セム系部族社会

1. 研究開始当初の背景

(1) 西アジアは世界で最初に食料生産経済（新石器文化）を発展させた地域である。こ

れまでの研究は、その起点、すなわち降雨量の豊富な天水農耕地帯での食料生産経済発

生プロセスの研究に偏向してきた。一方、食糧生産経済が発生した後の展開、すなわち、その二次的拡散については研究が遅れている。なかんづく、元来、栽培可能植物、家畜化可能動物が分布していなかった内陸沙漠がいかにして人類の開発対象となったのかについては本格的な研究がおよんでいない。

(2) 本特定領域研究が焦点をあてるのは、当初シリア沙漠内陸部に居地に定めたとされるセム系部族社会の出現経緯である。従来文献学的分野で追求されてきた課題ではあるが、文献学には粘土板文書が出土する河川流域の都市からみた沙漠に関する情報しか扱えないという難があった。したがって、シリア沙漠において本格的な野外調査を実施し、新石器時代以降の人類の進出経緯、その経済・社会戦略を考古学的、通時的に明らかにすることは、セム系部族社会研究に直接的な寄与をなす。

2. 研究の目的

(1) 乾燥地開発の技術。家畜放牧を含む一層の生業技術発展や物資調達のための社会戦略の進展なくして乾燥地帯開発は不可能である。まず、そうした技術的側面を整理する。

(2) シリア沙漠への進出過程。セム系部族民の故地とされるユーフラテス河中流域、シリア沙漠を調査対象の中心に据え、新石器時代以降の開発史を明らかにする。それをもって、セム系部族民の出現経緯を論じる。

(3) シリア沙漠における集団形成。乾燥地帯開発に乗り出した人類社会の構造を考古学的に分析し、部族社会形成史を明らかにする。

3. 研究の方法

(1) 乾燥地開発の技術の研究。天水農耕の限界地域とされる年間降水量 300mm 前後の地域（ハブール平原、イラン高原）、あるいはそれ以下の地域（パルミラ盆地）を選定し、既存の調査報告、標本群を収集、分析する。それによって、乾燥地帯の開発史、経済技術に関する通地的パターンを解析する。

(2) シリア沙漠への進出過程の研究。総括班が発掘地とするユーフラテス河中流域、ガーネム・アル＝アリ遺跡の発掘に参加し、出土標本の通時的解析もおこなう。また周辺で綿密な踏査を実施し、その収集標本同定をとおして時期別の遺跡数変遷を明らかにする。

(3) シリア沙漠における集団形成。踏査で明らかになった諸遺跡の性格、分布パターンは集団関係を反映していると推測されるため、それを分析する。また、ガーネム・アル＝アリ遺跡住人との社会関係も考察する。

4. 研究成果

(1) 乾燥地帯開発の技術について
西アジア各地の乾燥地帯進出パターンを比較した結果、新石器時代後期、および青銅器時代前期に画期がある点で共通していることが判明した。これは、それぞれ家畜技術の普及、遊牧の出現期と一致していると考えられる。すなわち、乾燥地帯開発と家畜利用技術の進展との強い相関を指摘することができた。

(2) シリア沙漠への進出過程について
踏査で明らかになった 200 近い沙漠地帯遺跡群を時代鑑定した。その結果、新石器時代、そして青銅器時代前期に遺跡数が急増していることが明らかになった。セム系部族集団の形成が青銅器時代前期の遊牧民集団出

現と一致するであろうことは従来、文献学の立場から示唆されてきたが、それを初めて考古学的証拠をもって裏付けたことになる。

また、新石器時代・青銅器時代間に相当する銅石器時代の遺跡が著しく少ないこと、青銅器時代前期の遺跡増加は新石器時代後期のそれをはるかに凌駕するものであることも判明した。これを考察したところ、両者の社会は接続するものではなく、青銅器時代初めに大きな社会経済的変化が生じたことが推察できた。遊牧の本格導入がそれを可能にしたと考えられた。

上記のような解析は沙漠地でみつかる遺跡の正確な時期鑑定が可能になってこそなされたことである。内陸沙漠では時代指標となる土器が全く採集されない。したがって石器の鑑定が不可欠であるが、青銅器時代の石器は大半が不定形の剥片であり、従来、同定不能とされてきた。今回、ガーネム・アル＝アリ遺跡の出土石器を詳細解析し、青銅器時代に特徴的な製作技術を初めて定義し、沙漠地散布石片の時期鑑定法を開発することに成功した。これにより、青銅器時代集団が残した短期逗留地を同定することができた。この方法は他の乾燥地に展開した集団を同定する際にも強力な武器となりうるもので、本研究の大きな成果の一つとなった。

(3) シリア沙漠における集団形成について
踏査遺跡の分析によって、青銅器時代の乾燥地遺跡群は集落、墓、短期逗留地など機能的に異なる遺跡から構成されていることがわかった。また、それらの分布が大・中・小などいくつかの階層的クラスターをもつ

て構成されていることも突き止めた。このパターンは前代にはみられない。このことは、現代にみる部族社会のように等質で分節的な社会がまさに青銅器時代に出現していた可能性が高いことを物語る。すなわち部族社会形成にかかわる一級の知見が得られたことになる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 12 件)

Nishiaki, Y. (2010) Archaeological evidence of the Early Bronze Age communities in the Middle Euphrates steppe, North Syria. *Al-Rafidan Special Issue*: 37-48. (査読無)

Nishiaki, Y., M. Abe, S. Kadowaki, S. Kume, and H. Nakata (2010) Archaeological survey around Tell Ghanem Al-Ali (II). *Al-Rafidan* 31: 115-118 (in Arabic). (査読無)

Nishiaki, Y. and M. Abe (2010) Archaeological survey around Tell Ghanem Al-Ali (III). *Al-Rafidan* 31: 125-128. (査読無)

Nishiaki, Y., S. Kadowaki and S. Kume (2009) Archaeological survey around Tell Ghanem Al-Ali. *Al-Rafidan* 30: 145-153, 160-163.

Nishiaki, Y. (2009) Reflections on the Paleolithic and Neolithic sites investigated by the University of Tokyo mission in the Palmyra basin, Syria (1967-1984). *Bulletin of the Ancient Orient Museum* 28: 9-21. (査読有)

西秋良宏 (2009) 「イラン、ラスルカン遺跡 “プレ・セラミック” 層出土の偽石器」 『ラーフィダーン』 30 : 1-14. (査読無)

西秋良宏・門脇誠二・有松 唯 (2009) 「トランスコーカサス地方新石器時代研究の現状と課題 —シュラベリ・ショム文化を中

心に」『岡山市立オリエント美術館研究紀要』23: 1-25。(査読有)

Nishiaki, Y. (2008) Prehistoric survey at the northern edge of Jebel Bishri, Raqqa. *Al-Rafidan* 29: 151-152. (査読無)

Nishiaki, Y. (2008) Further remarks on obsidian corner-thinned blades from the Northeast Syrian Neolithic. *Neo-Lithics* 2/08: 23-25. (査読無)

Nishiaki, Y. (2007) A unique Neolithic female figurine from Tell Seker al-Aheimar, Northeast Syria. *Paleorient* 33(2): 117-125. (査読有)

Hayakawa, Y.S., Oguchi, T., Komatsubara, J., Ito, K., Hori, K. and Y. Nishiaki (2007) Rapid on-site topographic mapping with a handheld laser range finder for a geoarchaeological survey in Syria. *Geographical Research* 45: 95-104. (査読有)

Nishiaki, Y. and M. Mashkour (2006) The stratigraphy of the Neolithic site of Jari B, Marv Dasht, southwest Iran. *Orient Express - Notes et Nouvelles d'Archéologie Orientale* 2006(3): 77-81. (査読無)

[学会発表] (計 30 件)

Nishiaki, Y. (2010) Bronze Age settlements and ad-hoc flaked stone tool production on the Middle Euphrates, Syria. *The Seventh International Congress on the Archaeology of the Ancient Near East*, London University, April 12-17, 2010.

Kadowaki, S. and Y. Nishiaki (2010) Consumption and discard of obsidian chipped-stones at Neolithic settlements of Seker al-Aheimar, Northeastern Syria. *The Seventh International Congress on the Archaeology of the Ancient Near East*, London University, April 12-17, 2010.

西秋良宏 (2010) 「西アジア乾燥地対への食糧生産経済波及プロセスと集団形成」『セム

系部族社会の形成—ユーフラテス河中流域の総合的研究』文部科学省科学研究費補助金特定領域研究第6回シンポジウム、豊島区舞台芸術交流センター、2010年2月4-5日。

西秋良宏 (2010) 「ユーフラテス河中流域の青銅器時代社会」『セム系部族社会の形成—ユーフラテス河中流域の総合的研究』文部科学省科学研究費補助金特定領域研究第6回シンポジウム、豊島区舞台芸術交流センター、2010年2月4-5日。

門脇誠二・久米正吾・西秋良宏「ユーフラテス河中流域の先史時代—第二、三次調査(2009)」『古代オリエント世界を掘る-第17回西アジア発掘調査報告会』日本西アジア考古学会。池袋サンシャインシティ、2010年3月27-28日。

Nishiaki, Y. and M. Le Miere (2009) The oldest Neolithic pottery from Tell Seker al-Aheimar, Northeast Syria: The archaeological contexts and technological developments". International Symposium on *The Emergence of Pottery in West: The Search for the Origin of Pyrotechnology*. University of Tsukuba, Tsukuba, October 28-29, 2009.

Nishiaki, Y. (2009) Archaeological Surveys of Bronze Age and Earlier Settlements around Tell Ghanem al-Ali. International Symposium on *Formation of Tribal Communities: Integrated Research in the Middle Euphrates, Syria*. The Sunshine City, Tokyo, November 21-23, 2009.

Nishiaki, Y. and S. Kadowaki (2009) The PPNB water well at Tell Seker al-Aheimar, Northeast Syria. International Symposium on *The Late Neolithic of Upper Mesopotamia*. The National Museum of Antiquities, Leiden, March 26-28, 2009.

Nishiaki, Y., Y. Kanjo, S. Muhesen and T. Akazawa (2009) The Natufian cultural remains at

Dederiyeh Cave, Northwest Syria. International Symposium on *The Natufian Culture in the Levant II*. Institut National de' Histoire de l'Art, Paris, September 7-11, 2009.

Portillo, M., R. M. Albert, Y. Nishiaki and K. Kadowaki (2009) Early Neolithic domestic activities at Tell Seker al-Aheimar (Upper Khabur, NE Syria) through phytoliths and faecal spherulites studies. The XXXth International Symposium of Antibes in Archaeology and History: *People and Plants - Landscape Exploitation and Vegetal Resources Management from Prehistoric Times to Present*. Antibes, France, October 22-24, 2009.

西秋良宏 (2009) 「ユーフラテス河中流域の青銅器時代石器群」『日本西アジア考古学会第14回総会・大会』日本西アジア考古学会、広島大学文学部、2009年6月13-14日。

門脇誠二・久米正吾・西秋良宏 (2009) 「ユーフラテス河中流域の先史時代 —第一次調査 (2008)」『古代オリエント世界を掘る-第16回西アジア発掘調査報告会』日本西アジア考古学会。池袋サンシャインシティ、2009年3月14-15日。

西秋良宏 (2009) 「ユーフラテス河中流域の古代集落 —ガーネム・アル=アリ遺跡周辺遺跡踏査」『紀元前3千年紀の西アジア』文部科学省科学補助金特定領域研究第5回公開シンポジウム、国士舘大学鶴川キャンパス、2009年1月31-2月1日。

西秋良宏・門脇誠二・久米正吾・安倍雅史 (2009) 「ユーフラテス河中流域の先史時代—第二次、第三次踏査報告」『日本オリエント学会第51回大会』日本オリエント学会。同志社大学、2009年10月10-11日。

Nishiaki, Y. (2008) Encountering a large Neolithic figurine at Tell Seker al-Aheimar, Hassake. Public lecture, *Damascus 2008 -Capital*

of Arab Culture. Damascus National Museum, Damascus, August 20, 2008.

Nishiaki, Y. (2008) The Neolithic of Northeast Syria: Recent Discoveries from Tell Seker al-Aheimar, the Upper Khabur. *Semairé a Maison de l'Orient du Méditerranéen*, Lyon, June 19, 2008.

Nishiaki, Y. (2008) Discovery of a large Neolithic female figurine from Tell Seker al-Aheimar, Northeast Syria. *The Sixth International Congress on the Archaeology of the Ancient Near East*, Rome University, May 5-10, 2008. (poster)

Nishiaki, Y., S. Muhesen, and T. Akazawa (2008) The Late Epi-Palaeolithic assemblages from Dederiyeh cave, Northwest Syria. *The Sixth International Workshops on the PPN Chipped Lithic Industries of the Near East*, Manchester University, March 3-5, 2008.

西秋良宏・門脇誠二・久米正吾 (2008) 「ユーフラテス川中流域の先史遺跡 —2008年春季踏査報告」『日本オリエント学会第50回大会』筑波大学、2008年11月1-2日 (ポスター)。

西秋良宏 (2008) 「中近東の新石器化-文化的側面 La néolithisation au Proche et au Moyen-orient: aspects culturels」『日仏交流150周年記念・講演と討論・日仏共同研究プロジェクト Chorus—日仏間の学術文化交流の現在：家畜化の起源』日仏会館、2008年3月13日。

西秋良宏 (2008) 「新石器時代のビシュリ」『西アジア部族社会とビシュリ山系』文部科学省科学補助金特定領域研究総括班第4回公開シンポジウム、池袋サンシャインシティ、2008年2月16日。

西秋良宏 (2007) 「西アジア乾燥地帯への食料生産経済波及プロセスと集団形成

(2005-2006 年度の研究成果) 『第 3 回セム系部族社会の研究シンポジウム』 文部科学省科学補助金特定領域研究総括班、池袋サンシャインシティ、2007 年 3 月 24-25 日。

西秋良宏 (2007) 「テル・セクル・アル・アヘイマル遺跡から見た北メソポタミア新石器時代の編年」 『日本西アジア考古学会 10 周年記念連続シンポジウム：西アジア考古学の編年』、日本西アジア考古学会、慶応大学。

Nishiaki, Y., S. Muhesen, and T. Akazawa (2006) The Natufian occupations at the Dederiyeh cave, Afrin, Northwest Syria. *The Fifth International Congress on the Archaeology of the Ancient Near East*, Madrid, April 3-7, 2006.

Nishiaki, Y. (2006) The Jazireh Neolithic: New perspectives from Tell Seker al-Aheimar, the Upper Khabur. Paper presented at *the Prehistoric Seminar*, Damascus University, April 11, 2006.

Mashkour M., A. Mohaseb, J.-D. Vigne and Y. Nishiaki (2006) The Neolithic settlement in the Marvdasht Plain – South west Iran. Paper presented at the Conference on *Archaeozoology of Southwest Asia and Adjacent Areas*, June 28-July 1, 2006.

西秋良宏(2006) 「イラン南西部、マルヴ・ダシュト平原の新石器化と 8.2k イベント」 『日本オリエント学会第 48 回大会研究発表』 早稲田大学文学部、2006 年 10 月 29-30 日。

西秋良宏(2006) 「西アジア乾燥地帯への食料生産経済波及プロセスと集団形成 (現状と課題)」 『第 2 回セム系部族社会の研究シンポジウム』 文部科学省科学補助金特定領域研究総括班、池袋サンシャインシティ、2006 年 7 月 1-2 日。

Nishiaki, Y. (2005) Jari B and Mushki: Problems on the Neolithic chronology of the Marv Dasht plain. Paper presented at *the Chorus Seminar on Marv Dasht Revisited: The Neolithic*

Archaeology Southwest Iran. The University Museum, the University of Tokyo, December 20, 2005.

〔図書〕 (計 8 件)

大沼克彦・西秋良宏 (編) (2010) 『紀元前 3 千年紀の西アジア—ユーフラテス河中流域に部族社会の原点を探る』 六一書房。

西秋良宏・木内智康 (編) (2009) 『農耕と都市の発生 —西アジア考古学最前線』 同成社。

Nishiaki, Y. (2008) *Naissance des Divinités: Figurine féminine “exceptionnelle” du néolithique*. Damascus: Ministère de la Culture, Direction Générale des Antiquités et des Musées.

Nishiaki, Y. and M. Le Mière (2008) Stratigraphic contexts of the early Pottery Neolithic at Tell Seker al-Aheimar, the Upper Khabur, Northeast Syria. *Proceedings of the 4th International Congress of the Archaeology of the Ancient Near East, Vol. 2*, edited by H. Kuehne, R. M. Czichon and F. J. Kreppner, pp. 377-386. Wiesbaden: Harrassowitz Verlag.

西秋良宏 (編) (2008) 『遺丘と女神-メソポタミア原始農村の黎明』 東京大学出版会。

西秋良宏 (2008) 「縄文時代開始期と同じ頃の西アジア—旧石器時代から新石器時代への移行」 『縄文時代の始まり』 小林謙一編：20-39、六一書房。

Nishiaki, Y. (2007) Patterns in exploitation and use of flint at the Neolithic settlement of Tell Seker al-Aheimar, northeast Syria. In: *Chert Availability and Prehistoric Exploitation in the Near East*, edited by C. Delage, pp. 87-103. Oxford: John and Erica Hedges.

西秋良宏 (2006) 「ムシュキとジャリ -イラン南西部、マルヴダシュト平原の新石器化に関する諸問題」 『生業の考古学』：292-305、同成社。

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

出願年月日 :

国内外の別 :

○取得状況 (計 0 件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

取得年月日 :

国内外の別 :

[その他]

ホームページ等

<http://homepage.kokushikan.ac.jp/kaonuma/tokuteiryouiki/index.html>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

西秋良宏 (NISHIAKI YOSHIHIRO)

研究者番号 : 70256197

(2) 研究分担者 該当なし

()

研究者番号 :

(3) 連携研究者 該当なし

()

研究者番号 :